

齋藤秀樹 著

森と花粉のはなし

発行所：株式会社ブイツーソリューション
 〒466-0848 愛知県名古屋市昭和区長戸町 4-40
 TEL 052-799-7391 FAX 052-799-7984
 2016年6月発行 A5判 204頁
 定価（本体 1,112円＋税） ISBN 978-4-434-22065-4

本州ではスギ花粉の飛散がピークを迎え、花粉症に悩まされている方々はそろそろうんざりしている頃かとお察しする。北海道にはスギは南部に植林地はあるがヒノキは分布しない。当地へ花粉症から逃れてきた方には、しかし、シラカンバ類の花粉症が待っている。一体どのくらいの花粉が舞っているのだろう、と気になる。

東京勤務時には製薬会社から「来年はどのくらい花粉が舞いそうですね？」と問い合わせがあった。気温との関係から見込みを話すことしかできなかった。あの時に本書があれば、科学に求められる具体的な数値を紹介できたであろう。

実は著者は林業家のご子息で私の指導教官であった。そして日本

が世界をリードしている物質生産の生態学の推進者である。

私は、学部3年生の夏休みにヒノキ人工林の間伐のお手伝いの中でリターフォール量と被食量の推定法を指導していただいた。

また、卒研でヒノキ雄花を分けて測定した時に「こうすれば花粉も測ることが出来るな！」と声をかけていただいたことを誇りに感じている。

著者は「ミクロでとらえにくく“後回し”にされてきた花粉生産量の推定法」を確立された。

本書の、28年間のスギ花粉生産量の長期モニタリングと気温を中心に花粉生産量のメカニズムを解析した結果は、花粉症対策に貢献するであろう。特に、花粉生産量の増加因子に触れて、「高温は



雄花数を増やすのではなく、大きく育てる結果と私はみている」と述べられているが、この記述に見られるようにいくつも「目から鱗」の記述がある。

本州の主要樹種の繁殖生態学から生物経済（＝家計簿）学的解析までの9章から成る。貴重な数値が掲載された表も多い。ぜひ、お手元で貴重な情報を得て下さい。

（北海道大学農学部 教授／小池孝良）